

# 図書館だより

横手明峰中学校図書館

R3. 10. 5

Vol. 7

## 読書の秋到来!



なぜ「読書の秋」というのか

中国では唐の時代に、次のような漢詩が読まれました。

時秋積雨霽  
新涼入郊墟  
燈火稍可親  
簡編可卷舒

秋の涼しくなり始めた頃は、灯火のもとで本を読むのがふさわしいという意味。韓愈（かんゆ）という文人が、読書や学問の大切さを息子に説くために読んだといわれています。

日本では、明治時代の1908年に夏目漱石が発表した『三四郎』の中でこの漢詩が紹介され、「秋に読書をする」というイメージが広がりました。

やがて大正時代になると、「図書週間」が始まります。その後昭和になって、日本図書館協会が「文化の日」の前後2週間である10月27日から11月9日を「読書週間」とし、出版業界でもこれにあわせてさまざまなイベントが行われるようになりました。

秋の夜長」といわれるように秋が深まるにつれて夜が長くなり、過ごしやすい気候であること、そして「読書週間」が制定されたことから、「読書の秋」という言葉が使われるようになったのでしょ

## おすすめ



- 「マカン・マラン」苦しかったり、つらかったりするのはちゃんと自分の心と頭で考えて、前へ進もうとしている証拠。
- クスッと笑いたいときには「**大家さんと僕**」
- 「**ピクトさんの本**」オリンピックで一躍注目を集めたピクトさん。簡潔に伝える、素晴らしい芸術。
- 「**三千円の使いかた**」人は三千円の使い方人生が決まる、祖母琴子の言葉。

### 今、話題の本



### 「モノのなまえ事典」

へえ？ の連続なのである



中学生だからこそ 思う  
中学生だからこそ 感じる  
中学生だからこそ 考える  
読書にはそんな魅力があるのです。

読書をする则ち自分が知っている、知らないに関わらず、いろいろな知識が入ってきます。興味があるとその部分をもっと細かく調べ深く知るきっかけになりますし、興味が無くても情報として持っていることで、いろいろな話題にもついていけるようになるのです。話す話題が増えれば自然と会話も増える。そう！読書をすることでいろいろな可能性が生まれてくるのです。



中学生は多感で、感受性の高い時期。いろいろなことを吸収し取り入れることができるのと同時に、影響も受けやすい時期なのです。その多感な時期に得る知識は、何ものにも代えがたく貴重です。これからの長い人生の道案内をしてくれるかもしれません。

本は知識の宝庫なのでから。

